留学生センター日本語教育カリキュラム改善に向けて
ー留学生の指導教官へのアンケート調査報告ー

酒井　たか子

要　旨

２００４年４月からの大学の独立行政法人化を控え、現在筑波大学留学生センターで行われている日本語の授業のあり方を検討しているところである。日本語の授業のシラバス、カリキュラム、開講時間などを見直すにあたり、実際に留学生を指導している教官に対して、留学生センターの日本語教育に何を求めているかを知るためのアンケートを行った。アンケートの内容は、日本語集中コースと補講コースのあり方、留学生に求める日本語力を中心とするものであり、本稿はその結果の報告である。

【キーワード】　留学生センター　日本語補講コース　日本語予備教育　アンケート調査　日本語力

Towards an Improved Japanese Language Course Curriculum for the International Student Centera :a report on a survey of academic advisors of international students

SAKAI Takako

【Abstract】 National Universities in Japan are going to be reorganized into Independent Administrative Institutions from April 2004, and against this context we have been considering the way our Japanese classes are being organized and designed. In order to redesign the syllabus, curriculum and timetable of the Japanese classes, we conducted a survey of teachers who are acting as academic advisors for international students in order to find out what they expect from Japanese language education for their students at the International Student Center. The survey asked about the way the intensive and general Japanese course are organized, and what kind of language proficiency they expect from their students. This paper reports on the results of this survey.

1. はじめに

筑波大学には2003年5月時点において78カ国1095名の外国人留学生が在籍しているが、そのうち約4分の1に当たる250名前後の留学生が毎学期留学生センターで開講している日本語補講の授業を、また10数名から20数名の学生が集中の日本語予備教育コースの授業を受けている。

現在、大学の独立行政法人化を控え、留学生センターでは限られた予算の中で、教官および学生のニーズに応じた質の高い日本語の授業のあり方が改めて問われている。そこで日本語の授業のカリキュラムやシラバス、開講時間などを見直すにあたり、実際に留学生を指導している教官に対して日本語教育に何を求めているかを知るためのアンケート調査を実施した。内容は日本語集中コースおよび補講コースのあり方、留学生に求める日本語力を中心とするものであり、本稿はその結果の報告である。

2. アンケートの実施

調査対象は、平成14年度に留学生の指導教官ないし担当教官になっていた筑波大学の教官389名。平成14年7月に調査票を大学の学内メール（学内の郵便）で送付し、回答は学内メール、ファックス、ホームページから質問をコピーしEメールで返信のいずれかとした。回答数は136名、回収率35.0%である。

アンケート項目は、回答しやすいように内容を限定し以下の項目のみについて尋ねた。（資料1参照）

アンケート項目

1．日本語集中予備教育コースについて

私費留学生に対する日本語集中コースの必要性とその理由

集中日本語予備コースの期間

一週間の時間数（集中と半集中）

授業時間以外に当てられる毎日の日本語学習時間

2．補講コースについて

1週間の日本語の授業の時間数

適当な日本語の授業開講の時間

日本語未習者に対する日本語クラスの必要性の有無とその理由

3．留学生に求める日本語力

日常生活で話すこと、学会などでの口頭発表など11項目

留学生の必要とする日本語力に関する意見

4．日本語教育に関する希望・その他

3．結果

3－1　回答者のプロフィール

回答者の所属学系

学系別に回答者数、対象教官数、回収率、および対象教官の指導している留学生数の合計を表1に示す。

表1　学系別回答数、対象教官数、回収率、および留学生数（平成14年度）

学系	回答数（人）	対象教官数（人）	回収率 %（回答/対象教官数）	留学生数（人）
哲学・思想学系	1	5	20	10
歴史・人類学系	2	11	18	47
文芸・言語学系	5	26	19	98
現代語・現代文化学系	1	9	11	22
教育学系	2	17	12	51
心理学系	0	2	0	3
心身障害学系	6	13	46	19
社会科学系	6	37	16	101
社会工学系	11	38	29	138
生物化学系	5	10	50	12
農林学系	8	13	62	21
農林工学系	4	17	24	67
応用生物化学系	10	19	53	52
数学系	0	2	0	2
物理学系	1	7	14	8
化学系	1	4	25	9
地球科学系	8	9	89	24
物理工学系	2	5	40	10
物質工学系	6	15	40	23
機能工学系	10	24	42	43
電子・情報工学系	9	23	39	67
体育科学系	15	35	43	73
芸術学系	5	25	20	68
基礎医学系	5	13	38	18
臨床医学系	9	17	53	26
社会医学系	2	4	50	6

受け入れ留学生

過去3年以内に受け入れた留学生の人数を聞いたところ、留学生1人が32名、2人36名、3人20名、4人13名、5人6名 7人以上10名、無答他が9名であった。約半数が1から2名であり、一方で同時に多数の留学生を抱えている教官もあるが受け入れ形態が違う場合もある。また、回答に当たって大学院生と学部学生では回答内容が異なるがどうするかという問い合わせ等があったが、備考欄に記してもらい本稿では自由記述の項目において意見を反映させるようにした。

3－2　日本語集中予備教育コースについて

集中で行われている日本語予備教育コースは、現在、大使館推薦・外国人教員研修留学生、大学推薦の国費奨学生等を対象としている。月曜日から金曜日、週20コマ(1コマ75分)、6ヶ月間(4月から9月および10月から3月の年2回各18週間) 合計約５５０時間のコースである。レベルは日本語の未習および初級程度として設定し、現在4クラス編成で運営している。

3－2－1　私費留学生に対する日本語集中予備教育コースの必要性

現在、私費留学生は受け入れていないが、私費留学生にも日本語集中予備教育コースを開設してほしいという声があり、指導教官にその必要性を尋ねた。90%近くの教官は「参加できる日本語集中コースがあれば受けさせたい」との回答であり、「特に必要はない」と答えたのは少数であった。

私費留学生に対する日本語集中コースは必要か

参加できる日本語集中ｺｰｽがあれば受けさせたい	121人(89%)
特に必要はない	9人(　7%)
その他	6人(　4%)
	136人(100%)

「特に必要ない」とした中で自由記述欄に記されたは理由は以下のものであった。

・各人の負担と責任で日本語を習得すべきである。(基礎医学系)
・ある程度の日本語力を有していない場合には、大学院生として受け入れない。(応用生物化学系)
・初級レベルはすでにクリアしているから。(歴史・人類学系)
・Lack of motivation (社会科学系)
・大学院の場合は英語でいいので、研究に専念させたい (地球科学学系)

3－2－2　集中コースの期間

3－2－1の質問において「必要」と答えた回答者121人に対して、適当な集中コースの期間を尋ねた。現在、筑波大学の年間授業スケジュールは3学期制であるが、日本語集中コースは10月と4月の来日に合わせ変則的に2学期制で行っている。回答者の6割が現行の18週間、4割弱が10週間を選んでいる。自由記述の中には、「中国・韓国は10週間、それ以外は18週間必要（農林学系）」という回答や「入試の間合いを図って濃密に実施してほしい（体育学系）」という回答もみられた。

集中コースの期間はどの程度が適当か

１８週（年２回開講）	72人（ 60%）
１０週（年３回開講）	46人（ 38%）
その他	3人（ 2%）
	121人(100%)

3－2－3　集中コースの一週間の授業時間数

現在、集中コースは週２０コマという日本語学習が中心となる完全集中のコースだけであるが、専門との両立のためには現在の半分程度の時間のコースがあればよいという要望もあったのでその需要を尋ねた。回答は現行通りの週２０コマの集中が過半数の５５％であったが、半集中も４５％と約半数を占め要望が多いことがわかった。また「週５コマ」（生物化学系）や「専攻、もしくは専門分野の日本語１０コマを加える」（文芸・言語学系）などの記述も見られた。また、半集中の場合の時間帯を午前・午後で聞いたところ、午前４２人、午後１２人と午前のほうが多く、また午前か午後両方で開講し選択が可能になるようにしてほしいという記述も3件あった。

集中コースの一週間の授業時間数

週20コマ　（週5回1日4コマ8時40分から3時）	66人（ 55%）
週10コマ　（週5回1日2コマ）	54人（ 45%）
その他	1人（ 1%）
	121人(100%)

3－2－4　授業時間以外に当てられる日本語学習時間

現在の集中コースは学習効率を上げるために、授業時間以外にも数時間以上の学習が必要な方法で進めている。授業のやり方を考える上で、指導教官の立場として授業時間以外にどの程度日本語学習時間として当てさせることができるかを聞いてみた。なお、1時間～3時

間のように幅がある回答の場合は平均の時間とした。結果は以下のように毎日２時間から４時間程度が多く、集中で日本語を学習している間は日本語に比重をかけて行うことを望んでいるようである。

授業時間以外に当てられる毎日の日本語学習時間

0～1時間未満	0人
1時間～2時間	13人
2時間～3時間	37人
3時間～4時間	45人
4時間～5時間	12人
5時間～6時間	4人
6時間以上	1人
その他	8人
	120人

3－3　補講コースについて

補講コースは、外国人留学生（学群学生、大学院学生、研究生、特別聴講学生及び特別研究学生）を対象としているコースで、日本語１から日本語７まで文型、会話、聴解、読解、作文、漢字など、技能別を含めて現在１週間に５２コマ開講している。レベルによって受講可能な時間数は異なるが、１週間あたり７～８コマまで選択できるようになっている。授業は3学期制で、各学期ごとに１０週間である。なお、現在日本語未習者対象のクラスは開講していない。

3－3－1　日本語の補講のコマ数

１週間に何コマ日本語の授業に出席させたいかを尋ねたものである。３－２－４と同様幅がある回答の場合は平均の時間とした。回答は０コマ（１人）から１０コマ（１２人）まで分かれたが、留学生の日本語力、身分、専門により異なるという記述も多く、留学生側の要因が大きいとのことである。自由記述には、「一日１コマ」、「最低週１０コマ」のような具体的なコマ数の記述のほかに、「研究生期間中はなるべく多くの日本語授業を受けてほしい（心身障害学系）」、専門の分野まで踏み込んで「一般日本語を３コマ、専門コースを３コマ（文芸・言語学系）」「日本の古典や高度の専門書の理解に役立つならば現在私自身が補講を行っているのでそれに変わるものがあればありがたい（哲学・思想学系）」という回答もあった。留学生センターにおける日本語教育にどこまでを求めているのかの差も大きい。

1週間に何コマ日本語の授業に出席させたいか。

0コマ	1人
1コマ以上～3コマ未満	33人
3コマ以上～5コマ未満	28人
5コマ以上～7コマ未満	33人
7コマ以上～9コマ未満	12人
9コマ以上	12人
その他	2人
	121人

3－3－2　日本語の授業時間として適当な時間

留学生および指導教官から、専門の時間と日本語の時間が重なってしまうという相談が多いため、日本語の授業として適当な開講時間を聞いてみたところ、1時間目が最も多くついで6時間目であった。自由記述の中には「統一的な時間の設定は難しいのである程度センターサイドで決めて構わない（文芸・言語学系）」、「たえず専門がありうるが、初年度で日本語が全くできない学生にとっては日本語を優先させたい」、という回答のほか、「実技等で芸術は時間がとりにくいため休業中に集中（芸術学系）」や「夜間」、「Should be organized outside the regular teaching periods」という通常時間外の希望もあった。「また1学期には必修科目が集中していて日本語授業と重複している（環境科学研究科）」等学期により条件が異なるという記述もあった。

日本語の授業時間として適当な時間（複数回答）

1時間目(8:40- 9:55)	61人
2時間目(10:10-11:25)	19人
3時間目(12:15-13:30)	6人
4時間目(13:45-15:00)	2人
5時間目(15:15-16:30)	5人
6時間目(16:45-18:00)	38人
時間を指定することは難しい	41人

3－3－3　日本語未習者に対する日本語補講授業の設定

留学生センターの補講コースは、最もレベルの低いコースで150時間の学習を要求しており、プレースメントテストの結果、ひらがなとカタカナの表記、基本的な会話、初歩の文法が理解できない場合は入るコースがないと判断され、毎回数名から10名前後の学生の受講を断っている。しかし、以前から日本語未習者向けのコース開設の要求の声も多く、改めてその需要とコース開

設の是非を聞いてみた。結果は「必要」とする回答が85％と多く、「不要」は15％であった。それぞれの自由記述については、資料2に記すが、「必要」な理由としては、「授業や研究がなりたたない」、「学習者の日本での生活適応や日本文化の理解のため、海外の日本語教育は不十分」などがあげられた。「不要」の理由としては、未習者は来るべきでないというものや、センターの日本語クラスの効率の問題などを挙げている。具体的な記述は資料2に記す。

日本語未習者に対する日本語補講授業の設定	
必　要	105人（85％）
不　要	19人（15％）
その他	0人（ 0％）

3－4．留学生に求める日本語力について

指導教官は、留学生にどの程度の日本語力が必要だと考えているかを知るために、日常生活と研究生活等の１１項目に関して、話す・聞く・読む・書くの４技能別に「必要・できれば必要・あまり必要でない・必要でない」の４段階で尋ねた。

3－4－1　日常生活

日常生活において、話す、聞く、読む、書くの４技能のそれぞれにおいて、日本語の必要度を図1に示す。 日本語が「必要」と答えたのは、「話すこと」「聞くこと」ではほとんど差がみられず6割以上であるのに対し、「読むこと」は約4割、「書くこと」は約3割であった。しかし「できれば必要」まで含めると「話すこと」「聞くこと」に到ってはほぼ１００％、「読むこと」で8割、最も少ない「書くこと」でも７割であった。

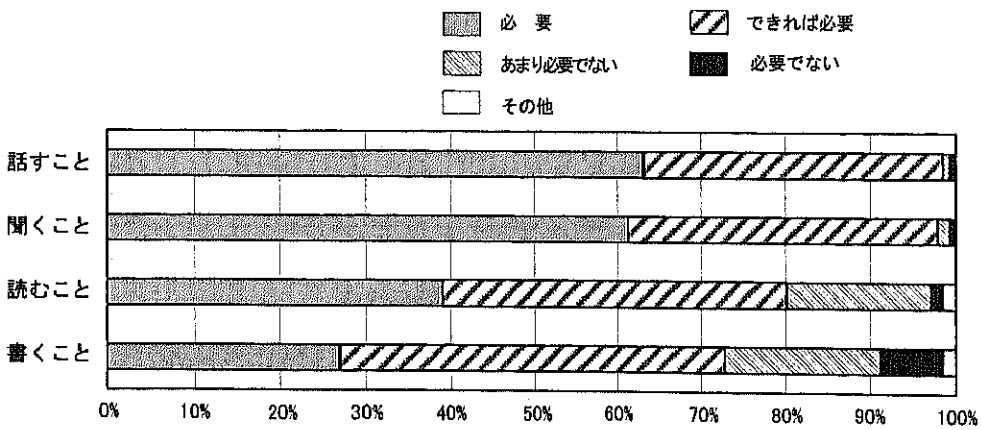

図1　留学生に求める日本語力　－日常生活－

「あまり必要でない」「必要でない」との回答には、英語ができることが前提という記述が多く、また学群のほうが日本語の要求は高いという傾向が見られた。

3－4－2　研究等に関して

4技能別に以下の研究等に関する日本語の必要性を尋ねた。結果は図2に記す。

話すこと

・学会などでの口頭発表
・ゼミでの発表
・指導教官との会話（専門に関する指導）
・指導教官との相談（日常生活に関する指導）
・その他の学生との会話

聞くこと

・講義を聴く
・ゼミを聴く
・研究に関する指示を聞く

書くこと

・論文・レポートを書く
・日本語でE-mailを書く

読むこと

・文献を読む

全体的にみると4技能の中では、聞く＞話す＞読む＞話すの順に必要度が高い。特に「聞く」の中の「講義を聞く」「ゼミを聞く」はほぼ１００％が「必要」ないし「できれば必要」との回答であったのに対し、「研究に関する指示を聞く」は、それに比べ個別対応が可能なためかやや低い。同様に「話す」ことの中では、「ゼミでの発表」を「必要」とした割合がもっとも高かった。

自由記述には英語力との関係、身分、専門に関する内容が多く述べられている。英語に関しては、「英語力があれば日本語力は少し低くても構わない」「英語力が低い場合は高い日本語力が必要」という相補的なことを自由記述で述べている回答が１０の例でみられた。特に「書くこと」に関しては、英語ができるという条件のほうが日本語ができるより重要（地球科学系）」など英語力の必要性を述べている。身分に関しては、学群、修士課程、博士課程で、特に学会発表などは異なるとのことである。「DCでは論文を英語で書く（体育学系）」、「大学院前期課程、」研究分野により要求する日本語力の差が大きい。専門に関しては、「日本国内の現地調査を行うので高い日本語力が必要（農林学系）、「専門が日本語学で要求水準が高く

なっている（文芸言語学系）」などによる差も大きい。また「中国、韓国の学生にはもう一段高いレベルを求める（基礎医学系）」というもの、「学生の資質による（農林学系）」という回答もあった。

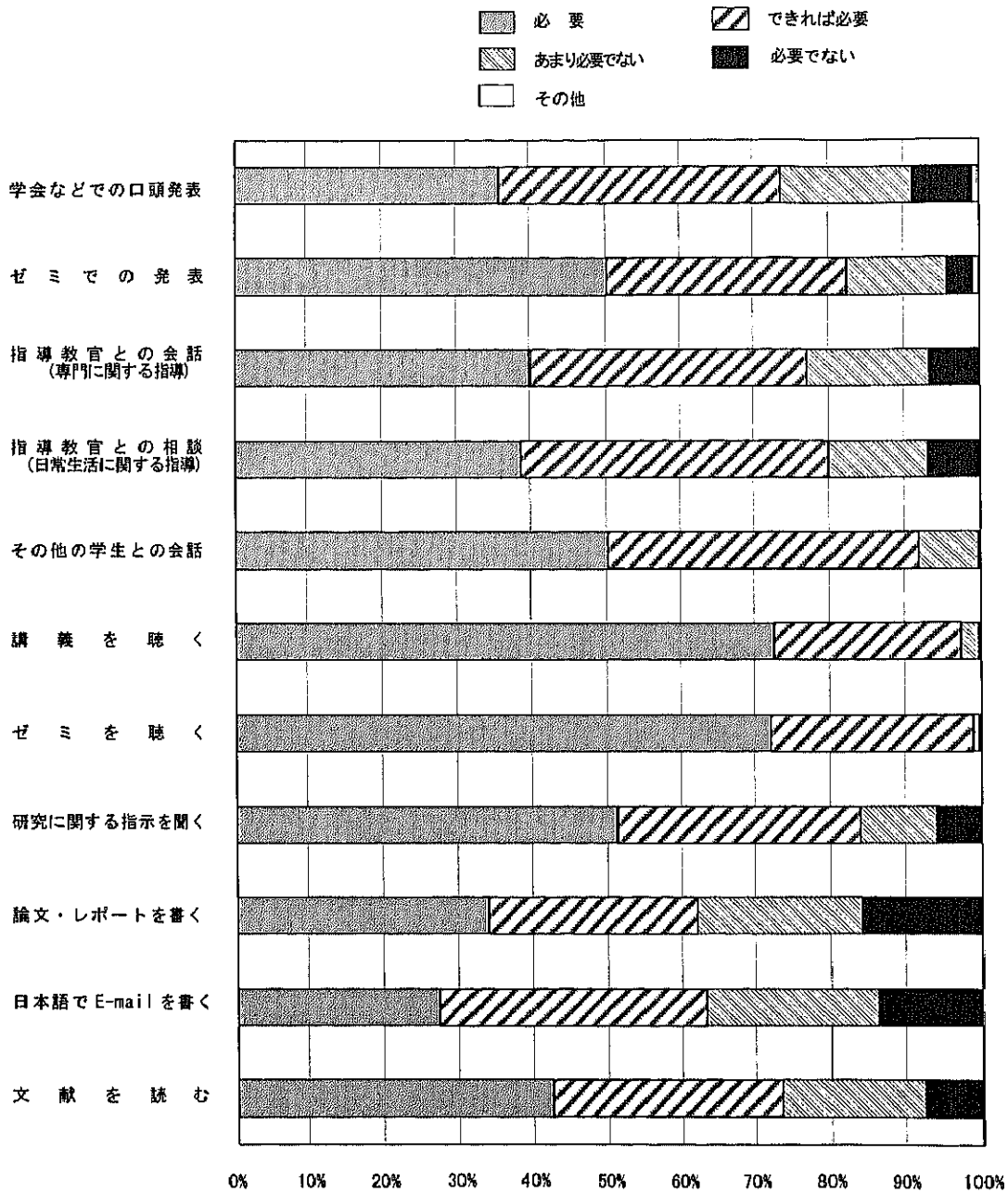

図2　留学生に求める日本語力　－研究等－

4．おわりに

現在、筑波大学留学センターでは、本調査の結果を参考にしつつ、日本語開講授業の大幅な見直しを進めているところである。特に未習者に対する授業の開講、半集中コースの設定、受講しやすい授業時間などについては２００４年４月から実施されることになった。このほか日本語力判定や認定の要望、専門に関する日本語との関連など、これからも大胆に改革していかなければならない状況であり、指導教官との連携が欠かせない状態になっている。アンケートで得られた貴重な意見、特に自由記述においては聞くことができた声を今後是非生かしていきたい。

資料1　アンケート

留学生センター・日本語授業についてのアンケート

筑波大学に在籍している外国人留学生（正規生・研究生・特別聴講生・日本語研修生など）に対して、留学生センターにおいてどのような日本語授業を設定するのが望ましいのかについてご意見をお聞きしたいと思います。特に授業時間や留学生の必要とする日本語能力に関してお考えを伺い、これからの日本語の授業のコース、レベル、内容などの設定を検討するための資料としたいと思います。

また、今年度から新たに「日本留学試験」が実施され、今後さらに日本語能力の低い学生が入ってくることが考えられます。現在ご指導されている留学生ばかりでなく、これから入ってくる留学生をも想定して日本語の授業に対するお考えをお聞かせください。

お返事は学内メール、ファックス（6204）、またはEメールでお願いいたします。9月6日までにお返事いただければ幸いです。ご協力のほど、よろしくお願いします。

２００２年７月

留学生センター長　黒田　誼

……

Eメールの場合は、以下のHPのアドレスからアンケートをコピーしてご記入の上、メールでお送りください。

アンケートの載っているHP http://www.intersc.tsukuba.ac.jp/japanese/info/intl_research2002.html メールの回答先 nihongo@intersc.tsukuba.ac.jp

下記のホームページも御参照ください。

留学生センターのホームページ

http://www.intersc.tsukuba.ac.jp

補講コースのシラバス

http://www.intersc.tsukuba.ac.jp/japanese/general-ja/index.html

留学生センター・日本語授業についてのアンケート

返信は下記のいずれかでお願いします。

学内メール：留学生センター　日本語授業アンケート宛
ファックス：6204
Eメールの回答先：nihongo@intersc.tsukuba.ac.jp

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

お名前：(　　)　ご所属：(　　)学系

1．留学生受け入れについて

筑波大学で過去３年以内に受け入れた留学生の人数　(　　)人

2．日本語集中コース

日本語集中コースは、現在国費奨学金の留学生を対象とした予備教育として、月曜日から金曜日、週２０コマ（計５００時間）　６ヶ月間（４月～９月と１０月～３月の年２回）開講しています。レベルは未習または初級程度のクラスとなっています。

私費留学生に対しても日本語集中コースは必要でしょうか。(　　)に○をつけてください。

a-1 (　) A．特に必要はない。理由 [　　]

a-2 (　) B．参加できる日本語集中コースがあれば受けさせたい

a-21 集中コースの期間はどの程度をお考えですか。

(　) １０週（年３回開講）

(　) １８週（年２回開講）【現行】

それ以外 [　　]

a-22 １週間の時間数はどの程度をお考えですか。　（１コマ 75 分）

(　) 週２０コマ（週５回１日４コマ８時４０分から３時）【現行】

(　) 週１０コマ（週５回１日２コマ午前のみ）

(　) 週１０コマ（週５回１日２コマ午後のみ）

それ以外 [　　]

a-3　集中コースでは授業以外に毎日３～４時間は勉強が必要なスケジュールでカリキュラムを進めていますが、授業以外に毎日どのぐらい日本語の勉強にかけてもよいと考えられますか。

(　　) 時間程度

3．補講コース

補講コースは、外国人留学生（学群学生、大学院学生、研究生、特別聴講学生及び特別研究学生を指し、科目等履修生を除きます）を対象としています。レベルによって授業時間数は異なりますが、１週間あたり１コマから８コマ選択できるようになっています。各学期ごとに１０週間開講しています。なお、現在日本語未習者対象のレベルは設定されておりません。

b-1. １週間に何コマぐらい日本語の授業に出席させたいとお考えですか。

１週間に　(　　) コマ

●●● 次のページもあります ●●●

b-2. 日本語の授業時間として適当な時間をお聞かせください。
専門などの授業がない時間に○をつけてください。

（　）1時間目（ 8:40- 9:55）	（　）4時間目（13:45-15:00）
（　）2時間目（10:10-11:25）	（　）5時間目（15:15-16:30）
（　）3時間目（12:15-13:30）	（　）6時間目（16:45-18:00）

（　）時間を指定することは難しい。
その他［

b-3. 日本語未習者に対する日本語授業の設定についてどうお考えですか。
（　）不要　（　）必要　［理由　　］

4．日本語力について

留学生に求める日本語力はそれぞれどのぐらいでしょうか。a b c dの中から一つ選んでください。

a必要　bできれば必要　cあまり必要でない　d必要でない

【話す】

C11. 学会などでの口頭発表……	a・b・c・d・その他（　　）
C12. ゼミでの発表……	a・b・c・d・その他（　　）
C13. 指導教官との会話（専門に関する指導）	a・b・c・d・その他（　　）
C14. 指導教官との相談（日常生活に関する指導）	a・b・c・d・その他（　　）
C15. その他の学生との会話……	a・b・c・d・その他（　　）
C16. 日常生活で「話すこと」……	a・b・c・d・その他（　　）

【聞く】

C21. 講義を聴く……	a・b・c・d・その他（　　）
C22. ゼミを聴く……	a・b・c・d・その他（　　）
C23. 研究に関する指示を聞く……	a・b・c・d・その他（　　）
C24. 日常生活で「聞くこと」……	a・b・c・d・その他（　　）

【書く】

C31. 論文・レポートを書く……	a・b・c・d・その他（　　）
C32. 日本語でE-mailを書く……	a・b・c・d・その他（　　）
C33. 日常生活で「書くこと」……	a・b・c・d・その他（　　）

【読む】

C41. 文献を読む……	a・b・c・d・その他（　　）
C42. 日常生活で「読むこと」……	a・b・c・d・その他（　　）

その他、留学生が必要とする日本語力に関してご意見がありましたらお願いします。

5．日本語教育に関するご希望などがありましたらお書きください。

ありがとうございました。

資料２　自由記述より

１．日本語未習者に対する日本語補講クラスは必要か（自由記述より）

【不要】

・何も勉強してこなくなるから（臨床医学系）
・未習者は入学させるべきではない（電子・情報工学系）
・日本語の基礎を自ら学習したことがあるという位の意欲がなければ日本語教師に負担をかけるだけ（応用生物化学系）
・現状では余力がとれず既存の日本語クラスの質が下がるおそれがある（社会工学系）
・ごく少数のこのころの学生のために対応するのは効率が悪い。英語ができれば日本語ができなくても生活に困らない（電子・情報工学系）
・集中コースで集中的に学ぶ方が効果的と思われるから（応用生物化学系）
・中途半端な日本語能力を身につけるより英語力を身につける方が良い（社会科学系）
・受け入れ不可能（英語もできない場合）（生物化学系）
・大学院後期課程の場合（但し、英語ができる事が条件）（物質工学系）
・日本語未習者が私費などで来るとは考えられない（機能工学系）
・私の専門が日本語学で当然日本語学専攻の留学生を想定して回答していますので要求水準が高くなっています（文芸・言語学系）
・Rediness for self-organized study is an indication of motivation（社会科学系）

【必要】

・日本に来た意味がない（農林学系）
・日本に留学した事実を最大限に有効活用すべき（社会工学系）
・実技授業であっても、大事な要素である（芸術学系）
・非英語圏からの留学生の場合、研究室内で他の院生とのコミュニケーション手段となる（社会工学系）
・現状では授業を受けるのに必要だから。英語のみで授業を行う大学院ができれば、日常生活に最小限度の日本語でも良いと思う（機能工学系）
・授業、研究指導が難しいので必要（応用生物化学系）
・日本語が理解できなければ授業が理解できない（応用生物化学系）
・指導上英語で十分であるがよりよく日本文化を知ってもらうため（地球科学系）
・英語か日本語のいずれかの能力がないと、教育研究の指導ができない。中級程度の日本語力を進級条件として設定するのがよい。（歴史・人類学系）
・たとえ授業を英語で行っても、日本語のある程度の理解がないと不便をもたらすことがある。たとえば、

日本事情についての説明（社会科学系）

・私の指導留学生に関しては必要がないので判断がつかない。但し、授業に出席している留学生の中に全く授業に対応できない者がいる。そういう学生の場合は補講が必要と感じる。（文芸・言語学系）

・研究、打ち合わせ、ゼミで必要（機能工学系）

・大学院入学希望者には一定の日本語力が必須のため（教育学系）

・日本語力がないと日本国内での調査ができない（農林学系）

・指導教官との間で、研究教育に関して十分意志疎通をするため（農林学系）

・研究の効率をあげるため（体育科学系）

・最低限の学習に必要。論文の作成に不可欠（体育科学系）

・授業内容を理解できないものがいるため（体育科学系）

・授業についていくため（地球科学系）

・大学院後期課程の場合は必要（物質工学系）

・本来最低中級程度の日本語能力を身につけて本学に留学してくるはずだが、なお授業等について不十分なため（文芸・言語学系）

・研究能力を発揮させるには全体的な日本社会文化への適応が必要（応用生物化学系）

・コミュニケーションは留学生の必須条件（社会医学系）

・コミュニケーションがとれないから（社会科学系）

・生活、コミュニケーションのため（物質工学系）

・コミュニケーションのため（臨床医学系）

・意志疎通がよりスムーズになる（臨床医学系）

・学内諸連絡、通知の徹底（社会工学系）

・コミュニケーションに日本語は必要（地球科学系）

・修学の熱意はあるものの、コミュニケーションツールとしての日本語能力に欠ける留学生が多いため（農林工学系）

・ケースバイケース。最低1カ国語で教官とコミュニケーションが図れる必要がある（臨床医学系）

・最低の日本語が必要（応用生物化学系）

・日本文化を理解してもらう（体育科学系）

・少なくとも日常生活ができる日本語能力が必要（電子・情報工学系）

・せっかく日本に留学したのだから、片言でも日本語を覚えより親近感を持ってほしい（応用生物化学系）

・できるならもうけていただける方が筑波の国際交流の可能性が広がって望ましい（文芸・言語学系）

・本人のため（応用生物化学系）

・片言でも話せるとよい（基礎医学系）

・生活上で必要だから（電子・情報工学系）

・生活会話程度の意志疎通は不可欠である（電子・情報工学系）

・生活に必要である（物質工学系）
・日常生活や学生との交流を考えると、日本語を聞き、話せることは重要。未習者にもそれなりのケアをお願いしたい（機能工学系）
・日本語の基礎を知っていれば、あとは目的別に勉強できる（基礎医学系）
・日本語会話程度は必要。専門の研究にとっては不要（地球科学系）
・生活・研究の上での最低限の日本語は必要だから（地球科学系）
・少しでもわかる方がよい（農林学系）
・自発的学習の契機になる（農林工学系）
・海外での日本語教育は十分でないことが多い（教育学系）
・学外で勉強しているようなので、便宜、質を考えて学内でもあった方がよい（生物化学系）
・未習者は自弁で外部の学校にいかざるをえない（電子・情報工学系）
・特別研究生の場合、留学の目的の若干？研究に特化しているので、来日後はじめて日本語に触れる学生もいる（農林学系）
・様々な理由から、現在はともかくも、国が受け入れているため（社会工学系）
・ハンデイキャップを補うのは責務（体育科学系）
・日本語を全く知らない人に、日本語がどういうものか教える段階も必要と思われる（電子・情報工学系）
・英語のみの学生にも、ある程度の日本語は必要である（物質工学系）
・学部生、大学院前期課程学生には必要（物質工学系）
・できるだけ日本語力を身につけさせるため（文芸・言語学系）
・日本史・日本文化関係では、私の近辺では未習者は受け入れていないと思います（歴史・人類学系）
・未習者の留学生が増加する可能性がある（社会工学系）
・理屈抜きで（文芸・言語学系）

2．留学生に求める日本語力

・日本語での授業が多いため、特に文系では聞く、話す能力が必要（教育学系）
・中国、韓国の学生にはもう一段高いレベルを求めています（基礎医学系）
・どの分野の勉学・研究を目指す留学生であれ、古典・古典の言葉や文法古典仮名遣いに対するアレルギー、抵抗がないようにしてほしい（文芸・言語学系）
・専門が文系のMC,DCの正規の学生の場合は、日本語力が絶対に必要になります。特に、研究生期間中はその基礎をしっかり身につけてほしいものです（心身障害学系）
・学群、MC,DCでそれぞれ情況が異なり一概に言えない。また、英語を生かすかどうかも問題（芸術学系）
・大学院レベルでは、英語、日本語共に高いレベルが必要である（生物化学系）

・英語がある程度できることが前提（生物化学系）
・特別な教育、研究分野では、日常会話程度の日本語能力でも、実際の教育、研究に支障は無かった。（応用生物化学系）
・英語力があれば、日本語は日常会話程度でもOK.（機能工学系）
・必要最低限（心身障害学系）
・英語力があるならば、日本語があまりなくてもよいケースもあります（生物化学系）
・いろいろな留学目的があるので、日本語力については、当人の必要性によると思われます（体育科学系）
・大学院の場合は英語でOK。研究に専念させる必要がある（地球科学系）
・いくら学んでも全く上達しない学生がいる（約半数）そのような者に無理に教えてもかえって害になると思う。指導などは英語の方がかえってより正確に伝わるから（地球科学系）

3．そ　の　他

・指導教官が日本語力が不十分と判断する学生には付加コースを課せるようにしていただきたい（農林学系）
・TOEFLのような日本語検定を、来日前と、来日後に受験させ、おおよそのレベルを知りたい（生物化学系）
・習得レベルを厳しく判断し、不合格、再履修者をだす（応用生物化学系）。
・学生の日本語力がよくわからない。貴センターで検定テストをして、各学生の読み、書き、会話の能力を客観的に教えてくれると有り難い（社会工学系）
・不十分な状態で、パスさせるのは良くなので、厳しく！日本の企業に入社後、国内他社との打ち合わせに支障があってはいけないから（機能工学系）
・日本語学習を希望する留学生については、是非、学習の機会を与えてほしい（機能工学系）
・日常会話には不自由しないレベルの留学生の（チューターはもうついていない）レポート、論文作成（日本語論文を本人が希望）の指導は本当に大変です。経費はこちらが負担しても良いので、マンツーマン指導体制を作ってもらえると有り難い（心身障害学系）
・補講ではお世話になっております。留学生の相手をしていると、日本語の難しさを痛感しています。英語の直訳でもよいので、シンプルな会話が重要かと思っています。よろしくお願いします（機能工学系）
・英語がわかれば日本語がわからなくても何とかなる。英語も日本語も分からない学生は受け入れない。そのような学生に日本語教育の公費を使って行うのは無駄だと思う。日本語教育の特別コースにかかる費用は受益者負担（留学生個人の負担）とすべきである（基礎医学系）
・私は、留学生が日常会話できれば、あとは英語でよろしいと思います。しかし、中国韓国の学生は後々に日本語能力が不足しておりますので、なるべくゼミでも日本語を使うように指導しています（基礎医学系）
・日本語も不十分、英語も不十分という学生がいる。そういう学生に限って語学の学習意欲が少ないようだ。入国での選抜により、資質の良い学生を受け入れることをすれば、日本語にしてもその他でも教えがいが

でてくる（応用生物化学系）

・留学生向きの特別授業を組むことは困難な現状がある以上は、留学生の日本語力向上が求められる。短期留学生には日本語向上をあえて求める必要はない。但し、日本文化の理解のためには、必要な面が多いので、留学生の希望に添った対応が必要と考えます。個々の研究においては、英語ができれば問題はないが、授業では、現状では日本語力が不可欠と思われるので、その点の工夫が大学全体として求められていると考えます（生物化学系）

・いずれにしても円滑なコミュニケーションのためには、日本語能力は必要ですし、折角日本にきたのであるから"文化"に触れるためにも学んでほしい（芸術学系）

・１０月に来日した留学生が、すぐに日本語集中を受けられるようにしてほしい。１２月の補習コースまで待機させられている（農林工学系）

・学期途中で来日した留学生教育（途中参加にしてほしい）（応用生物化学系）

・日本語の授業に出席ため、授業（演習も含む）や研究室行事（semi を含む）を欠席しなければならない場合もあり、日本語教育と専門教育とのバランスを取るのが少々難しいので、うまく調整ができるとよいと思います（農林工学系）

・４月に来日する学生が、日本語授業をとれない問題を解決してほしい（地球科学系）

・学生個々の資質や努力による部分も大きいと思いますが、概して１年間集中コースを終えた学生は、かなりの基本が身に付き、効果があるようにかんじます。ご尽力に感謝いたします（機能工学系）

・日本で留学するにあたって，自国で日本語教育を受けてきたという私費留学生をみているが、ほとんど通じない。日本語のできない私費留学生は、指導教官が面倒を見ろといわれているが、日本語の指導には手が回らないのが実状。留学生を引き受ける→日本語できない→大学院試験に受からない、という輪回になってきているので、「聞く」「話す」の日本語教育の初歩が充実してくれることを願っています（教育学系）

・決められた時間以外にも参加できるような日本語授業があると有り難い。留学生は日本語を学ぶことを望んでいるが、日本に来た目的が研究の場合、研究が優先する。研究の場合は日本語は必ずしも必要としない（生物化学系）

・学生のやる気も様々だと思います。最終的には本人次第ですが、私費の学生にもチャンスがあるのが良いと思います（社会工学系）

・日常生活においてすら、コミュニケーションが成り立たない留学生も散見される。日本に留学するからには、ある程度の日本語力を身につけて帰国してほしい。将来、日本との学術交流のキーパーソンとして活躍してくれる人材を数多く育成すべきと考える（社会工学系）

・これまで中国からの留学生（私費）２人を指導（大学院）していますが、留学生センターの授業の成果が良好で、今後も是非充実させていただければと思います（社会科学系）

・ゼミ、講義の内容を理解する事が最重要（社会科学系）

・私が今までお引き受けした方は、皆さん日本語がかなり出来るようになってから来日しているので、あまり言葉の問題を意識しておりませんでした（社会工学系）

・昨年、学位ＤＣを出した韓国の留学生がいます。その経験からすると非常に大変でした。リライトする時間のみならず、指導もそうです。意欲的な学生だったのですくわれましたが、「学位は当然出るものだというアジアからの留学生もいるのでこれには本当に困ります（体育科学系）

・一人で日本語の学習ができるまで「語学チューター」のような制度/サービスが必要だと考えています。日本語に関する留学生の疑問に正しく、スピーディに、そしていつ何時にでも答えてあげられるサービスが理想です（体育科学系）

・毎日ご指導ご苦労様です。おかげさまで留学生の日本語は飛躍的に上達しています。今後ともよろしくお願い致します（体育科学系）

・当方の受け入れ方の問題もありますが、特に中国の方は自分たちだけで生活している事が多く、日本人の院生との会話が極めて少なく、話す、聞く能力がなかなか上達しません。日常的に能力のアップする環境が整えばと思います。（すべて本人の意欲、意志の問題ではありますが、）（体育科学系）

・よくやっていただき感謝しています（体育科学系）

・日本語の必要な授業が多いのでぜひ強化していただきたい（体育科学系）

・従来の貴センターの教育は十分効果をみせています（体育科学系）

・理科系の学生にとって、日本語能力は必ずしも要求されないことも考えあわせれば、日本語力の要求水準を自分で設定して、その設定に対する到達度を評価する事が必要だと思われます。その点、上で設定された評点などはよいと思います。また、私のところでも、成果が上がっているのは、院生の TA だと思います。教室でのベテランのテーチングと同じ世代の TA の組み合わせと思います（体育科学系）

・自然科学系の大学院ではむしろ英語が公用語であり、特にアジア圏からの留学生に対してはその再教育が必要。一律に予備教育から行うのは再検討すべきかもしれない。特に日本語を本質的に必要とする学問分野と提携して、センターの日本語教育の在り方を改組を含めて再考してはどうだろう（地球科学系）

・いつも大変お世話になっております。半数程度の学生のは非常に役立っております。本当にご苦労様です。（地球科学系）

・日本の古典や高度の専門書の理解に役立つならば現在私自身が補講を行っているので、それに替わるものがあればありがたい。学生によるとセンターの従来の授業は易しすぎて、大学院の授業の役に立たないと聞いています。高度の専門書を読みディスカッションする授業があれば希望します。（哲学・思想学系）

・健康、安全等、生活上重要な日本語は優先して身につけられるような工夫があるとよい（電子・情報工学系）

・研究をするためには英語があれば十分だが、日常生活や、日本人学生との意志疎通を行うためには、多少の日本語能力が必要である。また、講義は日本語で行われることが多いので、大学院で単位を取得する必要がある場合は、高い日本語能力がある方が好ましい（電子・情報工学系）

・留学生として一括しても語学教育について語ることができない場合がある。たとえば上記のような特別研究生の場合は、研究を一義的な目的としており、また学位習得を必要としないので、専門的な会話は英語でこと足りてしまう。しかし、日常の会話は日本語でも行いたい程度の要望はある。このような要望に対しても、補講コースの有り様は十分に活用されていると思われる。従って、この場合集中コースと異なり、あまりインテンシブにな

らなくてもと思っている。最後に、いつも大変お世話になっておりますことを厚く御礼申し上げます（農林学系）

・英語能力も考慮してどちらかの言語で少なくとも研究に関する会話ができることが必要です（農林学系）

・日本語ができるということは彼らの財産になります。厳しく教え込むべきと考えます（農林学系）

・語学習得能力も他分野同様に個人差が大きい。能力別クラスではあると思いますが、比較的能力が低い層の立ち上がりをより手厚くできれば幸いであると考えます（物質工学系）

・留学生に必要なのは、日本語能力に加えて英語の能力も必要です。東南アジアからの留学生はほとんど英語の能力を持っていて心配ないのですが、中国、韓国、台湾からの留学生に関しては少し不足している学生もいるようです（物質工学系）

・日本語教育ではないのですが、中国留学生等への英語教育コースがあると大変助かります（物質工学系）

・日本人学生および留学生に至るまで、国語力がなさすぎる。そのため、英語力も同様に不十分である。まず、母国語の勉強そのものが不十分である。論理性の欠如している。留学生センターのご指導に期待しています（物質工学系）

・自然学類１年生の留学生を担当しております。日本に近い韓国人であることもありますが、短期間の学習により日本語の会話、読み書きがマスターされております。留学生センターのご指導大変感謝しております（物理学系）

・研究指導上日本語は必要なく、授業でも日本語をかなりマスターしていなくてもわかるような体制にすべきと思う。しかし、留学生受け入れの目的は専門分野の指導のみだけではなく、日本の文化等、日本をよりよく知って国民レベルでの相互理解を広げる一助とすることも重要な目的の一つと考えている。（留学生の多くは帰国後、社会に大きな影響を与える立場になっている事を考えると、彼らの日本理解はそれなりのインパクトを持つことが期待できる。）このように考えると、できるだけ日本語勉強してもらい、多くの日本人との日常会話を通じて日本文化の理解を促進することを意図すべきであると考える。それ故、日本語授業は必要と考える１０歳代半ばから２０歳代半ばにかけての若い世代に途上国の若者も先進国といわれている国の若者にも、様々な環境での教育を受けることができる機会を用意することは大切で、留学生センターは世界レベルでこのような教育をすべきであると考えています。筑波大の留学生の相談窓口に留まらず、他国の同様のセンターと連携し組織的な世界教育機関的働きを担ってもいいのではないかと思います。日本のODAの方針変更の提案と世界規模の連携教育機関設立などを目指した指導力のある留学生センターとなっていただきたく僭越ですがご意見申し上げます（物理工学系）

・日本文化に対応する日本語教育、日本経済学（社会学等）に対応する日本語教育、日本の科学に対応する日本語教育といった具合に、それぞれの特色のある日本語教育を考えて見てはいかがでしょうか。つまり、専門領域を持った日本語教育教員がそれぞれの分野の日本語教育を行うのです。初級、中級。上級の上にスペシャルクラスとか（文芸・言語学系）

・今後、協定関係を構築しようと考えるパートナー大学との交流の第一歩を築くために、私費留学生に対する日本語授業は是非お願いしたいところです。一律に無理なようであれば、せめて移行措置として、筑波の指官の推薦状を持つ私費留学生についてだけでも、日本語の授業が受けられるという体制を（相手校に

対する宣伝文句として）予め確約できるようにしていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします（文芸・言語学系）

・特にありません。日本語教育担当の先生方には感謝しております（文芸・言語学系）

・今後、独法化が進行していくと、未学習者対象のクラス（Aのような特別な留学生は除く）の授業を設ける必要が生じてくると思われる（文芸・言語学系）

・全員に高水準を求める必要があるかは疑問。但し、英語（国際語）が判らぬ人はコミュニュケーションがとれないので、このときは日本語ですべての用が足りないと学習は困難となる（臨床医学系）

・英語を母語とする留学生は英語でコミュニケートできるので指導上の問題は少ないが、アジアやラテン系の英語以外を母語とっする留学生には是非、日本語能力の指導をお願いしたい。数の上で、アジア系留学生が多く、英語能力も低いのが実状である。そのために、英語能力の弱い留学生を別枠に編成して、進学前の半年間に集中的な日本語学習を義務づけてほしい。中級レベルをクリアできない者には進学させないという処置をとってもよいのではないかと思う。数人の留学生からの意見として、留学生センターの日本語カリキュラムの内容が、東京の語学専門学校の日本語指導と比較して、実用的ではないという不満を聞かされています。教授法をご一考ねがえればありがたいです（歴史・人類学系）

・専門用語に慣れさせることが必要（応用生物化学系）

・論文を日本語で書く院生の場合、論文のスタイル、レベルでの日本語集中講義があると良い（心身障害学系）

・私の研究室に所属した外国人研究生は、９月に来日市翌年２月に大学院を受験する場合が多い。９月の日本語テストに合格しない場合、初級の授業がボランテイアによって行われていたが、回数が少なく不十分の印象を受けた。大学院入学後は、日本語の授業に割く余裕は無く、中級レベルは研究室での活動で習得できる部分もあると考えられる。以上より日本語の授業は初級レベルの授業に重点を置き、来日直後の期間に専門家が集中的に行うような方式が良いと思われる（応用生物化学系）

・研究室のゼミやミーティングの予定を３月末（１学期用）、８月末（２学期用）、１１月末（３学期用）には決めています。しかし、日本語クラスの講義日程が決まるのが遅く、研究室の行事予定が決まった後で、留学生が、その時間に日本語の授業が入ったのでなんとかしてほしい、と言いに来ることになります。学群学生に開設授業科目表が配布される時期には一年間の予定がfixできないものでしょうか。研究室の日本人学生とできるだけ交流を持つようにしていますが、大学院受験準備の研究生の段階では、それがままならず、留学生同士で英語でコミュニケーションしています（機能工学系）

・大変なご苦労をされているかと思います。いつも感謝しています。自分がドイツ語を現地で勉強したときは、すぐに使えるような状況設定の教科書が用意されていて、道の聞き方、アパートのちらしの見方、大家との問答、食堂での注文、買い物のしかた、クレームのつけかたなど、助けられました（社会工学系）

・集中、補講に学内外のボラテイアを活用したらどうでしょうか（社会工学系）